

b) システムがカバーしている業務範囲

表1 現在電算機が使われている業務

外来保険請求 (医事課)	保険請求、それからえられる諸統計の作成
予算管理一部 (管理課)	各科予算の大枠での管理
備品管理 (管理課)	備品の総合管理
中央検査部生化学 (中央検査部)	ワークシート作成、報告書作成精度管理、 問合せ応答、諸統計
輸血部在庫管理	保存血管理
薬剤管理	薬品倉庫の薬品管理、 諸統計処方薬剤の配合状況調査
薬剤情報検索	治験薬に関する問い合わせ、応答
各科病歴	産科、老人科入院、脳外科入院、 放射線科治療外来、分院外来、第3内科特別 外来の一部等
病理部	剖検データの集計
全診療科	医療データの統計解析

新しいシステムに必要となつた時に、は、この業務の中心の患者データを、用いるもの
 新は、関連業務も、システム化の、なつた、時に、は、この業務の中心の患者データを、用いるもの
 象業務も、システム化の、なつた、時に、は、この業務の中心の患者データを、用いるもの
 新病が、新しいシステムによる業務の、なつた、時に、は、この業務の中心の患者データを、用いるもの
 成が、新しいシステムによる業務の、なつた、時に、は、この業務の中心の患者データを、用いるもの

c) 主な機器構成

システムは、3つのコンピューターからなる。すなわち、FACOM M-170F 2台およびFACOM M-140F 1台である。一台のFACOM M-170Fは、医事会計業務専用利用される。2台目の170Fは、次の4つの機能を持つ。すなわち、

- a) 医事会計用の170Fのバックアップマシンとしての機能
- b) 医療用データベースの蓄積と検索
- c) 臨床研究用ファイルの蓄積とTSSを主体とした利用。
- d) システムの開発。

M140Fは、中央検査部用のコンピューターで、中央検査部への依頼、受け付けデータの処理および結果の短期間の蓄積、精度管理などに利用される。

2台のFACOM M-170Fは一部のディスクを共有するとともに、相互にデータの転送をオンラインで行うことが可能となっている。また、M140FとM-170Fの間では、データの転送の他に、M-140のコンピューターの端末から他方のコンピューターを使うことができるようになっている。

このシステムのもう一つの特徴は、前節で述べたように、全面的に日本語処理を採用したことである。このためディスプレイ端末はすべて日本語端末とした。

図-1 主な機器構成 (東大病院)



